

難聴の子どもたちの勉強 手助けします

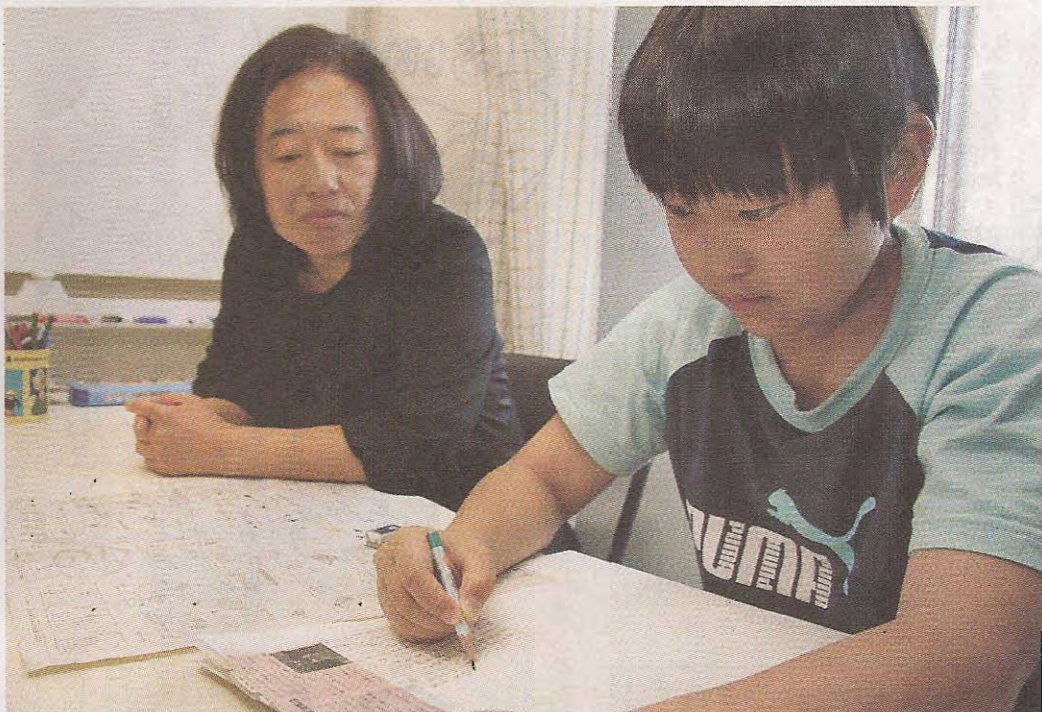
「マミー学園」

兵庫・西宮にできた学習塾

難聴の子どものための学習塾が兵庫県西宮市にできました。子どもの障害や悩みを理解した先生が教え、教材には朝小も使われています。通う小学生のひとり「表」現力をのばして漫画家になりたい」と勉強にはげんでいます。

(猪野元 健)

この塾は、難聴の子どもを手助けをするNPO法人「MAMIE」(大阪市淀川区)が今年の春に始めた「マミー学園」です。



①朝小を使って勉強する吉田一馬くん(右)と佐久間真美先生＝兵庫県西宮市のマミー学園で
②「勉強の大切さを知ってほしい」と話す、塾を開いた安藤美紀さんと聴導犬「レオン」＝大阪市淀川区のNPO法人「MAMIE」で



「表現力つけて漫画家になりたい」

授業を受けていた吉田一馬くん(大阪市・六年)は、生まれつきの病気でほとんど耳が聞こえません。読み書きや文章の理解、話すことなどが苦手という吉田くんは、通って

「力をつけたい」と勉強しています。手話もまじえて勉強を教えていた佐久間真美先生は「難聴児は、小さいころから言葉を聞いていないので、日本語が外国語のように難しいと感じる子どもが多い。文章を理解できないとほかの科目の勉強にも影響

ある土曜の午後、教室を訪ねると、文章力を高めるための授業が行われていました。子どもは用意された朝小から好きな記事を探し、文章を書き写します。わからない言葉は先生に聞いたり、辞書で調べたりして、写し終えると先生に記事の意味を発表しました。

朝小も教材になっています

ある土曜の午後、教室を訪ねると、文章力を高めるための授業が行われていました。子どもは用意された朝小から好きな記事を探し、文章を書き写します。わからない言葉は先生に聞いたり、辞書で調べたりして、写し終えると先生に記事の意味を発表しました。

「塾で未来を広げたい」と代表者 塾を開いた「MAMIE」の代表者、安藤美紀さんは、耳が聞こえませんが、生活の音を聞きわけて人に知らせる聴導犬と暮らしています。小さなころから少し言葉が話せたので、ふつうの小学校に入りました。しかし、聴覚障害者のための先生がおらず、専門の塾もなかったため、勉強に苦労したといえます。授業の内容がわ

き近く塾に入りまし た。しかし、授業についていけず、五年生のときにやめました。今年の春、マミー学園を知り、自宅から一時間かけて通っています。朝小は漢字にルビがあり、やさしく書かれているので、良い教材になっているそうです。 夢は特技の絵を生かした「漫画家」で、「塾で表現を増やすこともしています」と話します。

を聞く「MAMIE」を設立し、この春、塾を開きました。現在は六人が通っています。「全国でも難聴の子のための塾は少ない。耳が聞こえなくても、勉強はわかると楽しいということ」を伝えていきたい。マミー学園についての問い合わせ先は「MAMIE」(ファクス06・6885・4141、メールアドレスmami@mamie.jp)。九月からは大阪市にも教室を開きます。